

第2回 諏訪市 ICT 教育推進協議会記録

課所名

教育総務課

会議名 第2回 諏訪市 ICT 教育推進協議会

開催日時 令和3年11月19日(金) 午後 16時00分 ~ 17時35分

開催場所 諏訪市役所 201会議室

出席者 会長:五味 康剛、 副会長: 榊澤直樹 (敬称略)
委員: 小島雅則、宮尾昭広、河西一樹、五味和高、伊藤正敏、小島郷史、神谷慎介
(欠席者) 2名 飯野敏行、尾崎剛
事務局: 細野教育次長、柳平教育総務課長、森教育企画係長、名取主任、岩波指導主事
(傍聴者) 1名

資料 ◇配布資料
No.1 前回協議会以降の ICT 教育に係る動向について
No.2 諏訪清陵高等学校附属中学校の GIGA スクールの取組について
No.3 諏訪市 ICT 教育推進計画策定に向けた意見交換

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

1 開会(教育総務課長)

2 教育長あいさつ

ICT教育は、ただ闇雲に実践するのではなく、1つ1つ意味を分かりながら実践し、子供たちの勉強のツールだと思っている。焦らずに着実に進めて参りたいと思っている。この委員会はそれぞれの分野の皆様にご参集いただいているので貴重な意見をいただきながら大事なことを進めて参りたい。どうぞよろしくお願いいたします。

3 協議

(1)ICT 教育の現状等について

・前回協議会以降の ICT 教育に関わる動向について

【事務局より説明】(資料 No1)

会長: 湖南小学校、諏訪西中学校を視察した感想ですが、両校とも先生方が積極的に使いたいなという思いが非常に良く伝わってきた。特に ICT 機器に感心のある先生方が中心となって進めている姿を拝見できた。校長先生方と懇談する中では、使いたいという思いはあるが具体的にどの授業のどの場面でどのようなアプリケーションを使えばよいのかがわかりにくいという思いを持っている様であった。この部分がネックであり、大きな壁であると思う。ICT 機器は最初から理解して使いこなすことは難しいと思う。ここにおられる委員の皆様方も、さわっていきつて失敗をくり替えしながら徐々に掴んでこられた経験があると思う。情報を共有し、具体的に利用場面毎に推奨するアプリケーションを紹介したり、そのアプリケーションの研修を行なうことも必要だと思う。まず先生方が使ってみようという思いにならないとなかなか活用できないと思う。今後も市内の学校の状況を理解していただきながら今後の対応を委員の皆様にご検討していただきたいと思う。

・諏訪清陵高等学校附属中学校の GIGA スクールの取組について

【五味和高委員より説明】(資料 No2)

・ICTを活用した授業の様子

【事務局より解説】(中洲小学校、上諏訪小学校、城南小学校の動画視聴)

質疑・意見交換

委員: 清陵中ではプロジェクターやスクリーンなどPC以外のものを常設していると聞いたが、PCはどうしているのか。

委員: 指示をしなくても朝から各自で準備している。探究的な学びや総合が盛んな学校なのでレポートを作ったり、発表のプレゼンを朝の時間に作っている生徒もいる。

委員: 仕事の分担の考え方ですが、苦手な先生もいる中どのようにお願いしているのか。

委員: 前向きに取り組んで下さる先生が運よく多かったのかなと思っている。去年の2カ月の休校の時に一気に話が進んだ感じがある。日頃だったら苦手な先生も、ICT 必要なんじゃないかなというタイミングだったので研修やオンライン会議もできた。

先生たちに受けが良かったのは、グーグルのフォームというアンケート作成ソフトが色々な場面で活用できるのでごく勉強してくれた。自分たちの仕事がスムーズに進むとか知って、得になることは効率化にもよいのでそのようなことを切り口に普及されたらよいと思う。

会長: 非常に参考になる意見だと思う。経験してみないとわからない事が沢山あるのでそういう情報の共有が大切であると思う。

委員: 生徒は授業中もタブレットを自由に使えるのか。

委員: 1人1台導入されたときにいつでも使えるようにした。ICT 管理局(有志生徒で組織)の生徒と相談して実践してみた。

委員: 持ち帰りはどうされているか。

委員: 家庭のインターネット環境の調査をした時に端末を持っている家庭がほとんどであった。1人1台端末というよりは1人1アカウントという考え方にして、家で繋げられるのなら家のPCを使ってもらうことにした。親用のPCなどで使えない家庭は、申請をしてもらって持ち帰れるようにしている。

副会長: 我校ではICT担当の先生に業務が集中しないよう心掛けている。大きな学校であれば、学年で1人担当をつけるなどの工夫が必要かなと思う。

委員: 我校ではICT担当だけでなくみんなでも共有している。困っているがゆえにみんなでも考えて実践している。

委員: できると頼られる、やると頼られるので、そういうところから意識を変えるのもいいのかもしれない。

委員: PCは使わなければわからない。使っていれば閃きもある。何に使えるのだろうと考えていたらいつまで経っても使えない。なんでもいからとにかくやる事が非常に大事。今の世の中使えないと仕事にならないので、失敗しながら覚えていくしかない。先生たちが積極的に自らの仕事で使ってみるのが1番だと思う。生徒の方がわかっているの先生たちは後追いになってしまう。先生たちは社会人としてのPCモラルを指導しつつ、技術的なことは子供たちにも教わりながら相互に進めていければいいと思う。今、手探り状態は当たり前なので、先生たちは引っ張らなければ、指導しなければ思い込み過ぎると、反対に先生の持っている知識でしか進まなくなってしまうのでみんなで作っていく方針でよいと思う。子供たちに恐れずに使わせてもらいたい。

あと、タブレットは使う側、PCは作る側。使う側の人間に子供たちを育てても仕方がない。作る側の人間に育てないと日本は発展しない。自ら作り出し、プログラミングを実践することが重要。

副会長: 得意な先生もいれば苦手な先生もいる。学校でやっていく以上、みんなでもやらないと意味がない。チームスとスタディーノートを中心にこれだけは使えるように頑張っている。

職員連絡会をチームス会議を使って各学年がホストになってやっている。これを繰り返すことでスキル

が上がっている。今インストールされているソフトでできることを示していく事が大事だと思う。

委員: 今まで使っていなかった先生たちにこういった使い方ができますよと提示することが大事だと思う。効率があがるなら是非使ってもらえると思う。私たちも各校回って教えてあげられればと思う。

委員: 中洲小学校のコミュニティースクールで取り組んでいる地域公開講座でプログラミング教室においてスクラッチで例題を出して実践したが、私達が用意してくる例題を子供達は5分で解決してしまう。早く次のプログラミングをしたいと言ってきます。子供達の方が先を行っているのは実感する。清陵中のお話を聞いて、子供達が自発的に朝、PCの準備をするというのは素晴らしいと思う。先生は業務でやらなければならないことはいくつもあると思うので、その中のいくつかはオンラインでやって、緩い強制で使っただけのようにすれば効果的かなと思います。会社でシステムとかツールだとかを導入してもミドルの方々とか使っただけでない方がいる。電話とかで回答しないでどこどこに保存してあるので見てくださといった案内をして、無理やり使っただけのような環境を推進しています。

委員: どんどん使いましょうにも段階があつてうまくいっている所は、もともと実物投影機を常日頃から使っていたとか、教室に1人1台ではなくてもPCが使える状態であったようなところはうまくいっているようである。

積

み重ねが大事なのでいきなりどんどんやろうとしないのでできることから段階的にやっていくとよいと思う。

会長: 大変貴重なご意見をいただきました。プロジェクターをその度に準備するやり方だと先生方は運んで、セットしてと非常に大変でそのうち使わなくなってしまう。常時使える環境は非常に大切だと思う。また、先生方が躊躇なく使ってもらえる環境を作ることが大事だと思う。そのためには情報を共有してもらえればよいと思う。

(2) 諏訪市 ICT 教育推進計画策定に向けた意見交換

【事務局より説明】(資料 No3)

質疑・意見交換

委員: 基本計画としては素晴らしいことが書いてあると思うが、計画をつくる事によって具体的に何が起こるんだろうといったイメージがわからない。もう少し具体的な記述があると意見が出ると思う。我校でも5年経ったら今のタブレット使えなくなるよね。じゃあどうする?といった議論があるが、そういうことを盛り込んだらいいと思う。

事務局: メインになるのは方針があつて、それに具体的な計画がぶら下がってきます。具体的なものがないと意見が出にくいというのは十分承知している。素案を作り始めているので1月の初旬に具体的な部分まで示すよう準備する。

会長: 計画というのは、何のために推進していくのかが大事だと思う。先ほどまでにも参考になるご意見をいただけたらと思うので参考にしながら作りこんでいただけたらと思う。

委員: ICT 関連機器整備状況にタブレットの配備状況が示されているが、小学1年生は中学まで同じものを使うのか。

事務局: 小中で分けます。小学校1年生は6年生まで。中学校も同じ機種ですが3年間使用する。3年生が卒業したら、その機種は中学1年生が使う。

委員: どのような計画ができるのか非常に楽しみである。モデルプランというか、1日の流れみたいなものを示していただけるとよいと思う。

委員: 諏訪市独自の取り組みである「ものづくり科」のプログラミング教育は是非取り組んでいただきたい。国がプログラミング教育必修化と言っていたが大分トーンダウンしてしまっている。情報活用能力の育成に諏訪はものづくりの土壌があるので是非それと絡めてプログラミングを推進していただきたい。楽しみにしている。

会長: 国の指導方針はプログラミング的思考を求めている。小中学生にもわかりやすいプログラミングの構造を教えて自分でイメージしたものを作り上げていくことが本筋だと思う。

委員: アプリはバイオリン型がいいのか、ピアノ型がいいのかという話を先日聞いた。バイオリンは成長に伴って大きさを変えていく楽器で、ピアノはその大きさのまま使う楽器なのですが、アプリも学習用に長けたものと一般的な Word とか Excel とかがあって、小学校では教育用を使いましょう、中学生になったら大人でも使えるアプリを使いましょうといった導入方針があると機器の選定やどのアプリを入れたらいいかわかりやすく明確になると思う。

会長: アプリケーションについては中学校になるとそれぞれ専科指導で教科によっていろいろな要望が出てくる。それに 100% 答えられればいいが中々難しい。共通基盤として有効的で使いやすいアプリケーションを導入するといった方法になってしまう。諏訪市の GIGA スクール構想で導入したアプリケーションも、あるものを如何に活用していくのか、自分の教科で使えるのか研究することも重要になってくる。こういうことを進める中でこのソフトがあった方がいいよというのがあれば是非提案して欲しい。事務局の方でも考えていくと思う。

委員: 正直どのアプリを選ぶのかはどうでもよくてそれを使って如何に効率よく物事ができるか、学習を進められるかということを学んでほしい。世の中に出れば今まで使っていたアプリと全然違うものを使わないといけな場面が出てくる。アプリの使い方を覚えても意味がない。うまく活用する方法を学んでほしい。

委員: 全く同感で、ソフトは入り口で中身が大事。

会長: 今いただいた意見が ICT 教育の基になると思う。どの機器であろうとどのアプリであろうと有効活用する方法を学んで欲しい。操作の部分は我々より子供の方がはるかに早く習得する。失敗することもそれが意欲や深い学びに繋がる。そういうことを目指す諏訪市の ICT 教育になればよいと思う。

4 次回以降協議会の開催予定について

事務局: 次回は 2 月 14 日(月)市役所大会議室で午後 4:00 から予定しております。ICT 教育推進計画の素案を 1 月初旬を目途にお送りします。ご意見等をメール等でいただけたらと思う。いろいろなご意見をちょうだいできればと思う。

5 その他
特になし

6 閉会

(17:35 終了)